

東員町ではCLMを大切にしたい保育・教育をしています

CLMとは → チェック リスト イン みえ
Check **L**ist in **M**ie

三重県立子ども心身発達医療センターが開発し、保育所や幼稚園の集団生活において、子どもの行動等を観察し、その子に合った支援を行うものです。

子どもの支援は、クラスの他の子どもへの支援とバランスを保ちながら、日常の園生活の中で、育ちあいを軸として、適切な支援を行うことを目的としています。適切な支援とは、すべての子どもにとって分かりやすい支援です。

東員町すべての幼稚園・保育園で行なわれ、その考え方は、小中学校でも大切にしています。



ご家庭で大切にしたいCLM7つのポイント

ポイント① 見通しを持たせる

- 計画やスケジュールを立てるなど、これからすることの流れを先に伝える。
- 「～したら、おしまい」など、することの「はじめ」「おわり」を明確に伝える。

ポイント② 注目をさせる

- 子どもと目を合わせてから、話をする。

ポイント③ 視覚で支援する

- 「約束表」など、子どもが「見て考え、行動する」ために、わかりやすい手がかりを示す。

ポイント④ 指示のしかたを工夫する

- 指示（してほしいこと）は、短い言葉で伝える。
- 複数の指示をしたい時には、「1つ目～、2つ目・・・」と区切って伝える。

ポイント⑤ モデルを示し行動を促す

- 家族で一緒に取り組む（大人が見本となる）。

ポイント⑥ 褒め方と場面づくりを心がける

- すべきことを具体的に示し、できた時にすぐ褒める。
- 褒める場面（家の手伝いなど）を積極的につくる。

ポイント⑦ 褒めの三重構造を意識する

- 子どもを身近な大人が褒め、他の大人がそれを聞いて褒めるなど関わる大人が幾重にも褒める。



「褒め」がなじまない場合は、どうしたらいいの？

「・・・してくれて、助かった。嬉しかった」など、良かったことをこちらの気持ちとして伝える。
「さすがだな」「頼もしいな」など、大人向けの言葉で褒める。

東員町教育委員会 事務局 学校教育課

〒511-0251 東員町山田1700 TEL: 0594 (86) 2815 FAX: 0594 (86) 2854

http://www.town.toin.lg.jp/ E-mail:gakkyo@town.toin.lg.jp



参考文献：児童精神科医・佐々木正美「こどもへのまなざし」福音館書店
「子どもの心がみえる本-再びエリクソンに学ぶ-」子育て協会
「抱きしめよう、わが子のぜんぶ
—思春期に向けていちばん大切なこと—」大和出版

すべての子どもたちが、社会でいきいきとした自分の人生を歩めるように



みんなで育てよう! MY 3感・YOUR 3感

基本的
信頼感

自己
肯定感

自己
有能感

批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします
敵意にみちた中で育った子はだれとでも戦います
ひやかして受けて育った子ははにかみ屋になります
ねたみを受けて育った子はいつも悪い事をしているような気持ちになります
心が寛大な人の中で育った子は自信をもちます
ほめられるなかで育った子はいつも感謝することを知ります
公明正大な中で育った子は正義心をもちます
思いやりのある中で育った子は信仰心を持ちます
人に認めてもらえる中で育った子は自分を大事にします
仲間の愛の中で育った子は世界に愛を見つけます

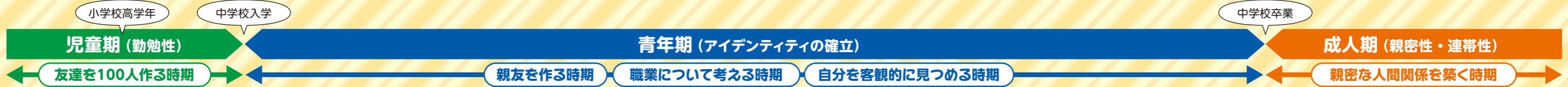
(「アメリカ先住民の教え」より)



東員町教育委員会

思春期の子どもと向き合うために

青年期・思春期（12～17歳ごろ）における子どもたちは、「自分」という人間を客観的に見つめ、『自分を知る』時期にあたります。また、この時期は今後の自分自身の生き方について考える時期でもあります。子どもたちは、学校や家庭・地域の中で人と関わり、自分自身を見つめながら「自分とはこういう人間で、これからこのように生きていきたい」と考え、『社会の一員として、よりよく生きていく力』を磨きます。（アイデンティティの確立）



親としての接し方のコツ

中学校入学に伴い、学習面・人間関係への不安などからストレスを感じる子もいます。家庭の中で、子どもが安心してリラックスできる環境を作ることが大切です。

聞くこと 待つこと

自分の話をたくさん聞いてもらうことで、子どもは安心することができます。（**基本的信頼感**）

しかし、親が学校での様子や友達関係などを心配し、何でも聞きすぎてしまうことがあります。本当に話をしたい時には、子どもから話をしてくれませう。

それまでは待ちましよう。

そして、子どもが話し始めたら、想いや願いを尊重し、じっくりと話を聞いてあげましよう。

温かい言葉がけ

子どもは褒められたり、認められたりすることで**自己肯定感・自己有能感**が育まれ、学習や生活の意欲が高まり、自分自身で進路を選択していくことができます。

3感が高まるメッセージをかけよう

- 私ほ…
「うれしい」「感謝している」
「安心できる」「助かる」
私も…
「悲しい」「同じ気持ち」
- × 「…をしなさい」
「なんでできないの」
「どうしてあなたは…なの」

自分の感情任せに子どもを傷つけるような言葉は絶対使わない

どんなに愛情のつもりでも、**子どもの人格を否定するような言動や行動は絶対にいけません。また、友達や兄弟と比べることもよくありません。**子どものありのままを受け入れて応援してあげましよう。



家庭での過ごし方

お手伝いをさせよう

子どもが健やかに育つために必要な時間は「くらしの時間」「遊びの時間」「学びの時間」です。

「くらしの時間」を充実させるために、家で手伝いをしたり、小学校で経験した「弁当の日」を活かして、弁当作りをしたりすることで、**感謝する心、自立する力が身に付いていきます。**

家族の一員としての役割を意識して生活できるように働きかけていきましょう。



ネットルール作りをしよう

子どもと話し合い、インターネットを利用するときのルールを決めましよう。**大切なことは、ルールを親が強制するのではなく、一緒になって考え、子どもが自らきちんと守ることです。**

お互いが納得するまで、じっくり話し合い、決めたルールを守るように見守り、声をかけていきましょう。

思春期の子どもたちは、自分を否定しがちになったり、投げやりな言葉を出したりすることがあります。また、希望や理想と現実の間に、差を感じたり、周りの目を気にしたりすることもあります。そこで、自分の将来や夢について思い悩む子どもに寄り添い、一緒に考えてあげましよう。



親の期待を押しつけない

親は、自分自身の経験や子どもへの愛情から、「こうなってほしい」「こんな人間になってほしい」と願います。子どもは、そのような親の期待に応えようとするがありますが、期待が強すぎると、子どもは重く感じて息苦しくなってしまう。

子どもが夢や希望に向かって、いきいきと生活できるよう、しっかりと子どもの想いに耳を傾けながら支えていきましょう。

「親子で話そう!」

尊敬している人や憧れの人（自分が成熟していくためのモデル）に出会ったり、職業観を持ったりすると子どもたちは学ぶ意欲を持ちます。

親の職業観を聞かせたり、子どもの話を聞いたりする時間を増やしていきましょう。



16年間の育ちを土台にして

いきいきと生きていくために

これまでに出会った人たちと育んできた**基本的信頼感**をもとに、ありのままの自分を受け入れながら（**自己肯定感**）、周りの人と深い親密な関係（**親密性**）を築いていきます。

人は必ず誰かと関わり合いながら生きています（**連帯性**）。「誰かのために役に立っている」「相手や仲間から必要とされている」（**自己有能感**）と、感じられる経験の積み重ねが大切です。

いろいろな人との出会いを大切に

子どもたちは、中学校卒業後、より多くの人と出会う中で、相手の価値観や自分と異なる部分を認めながら、共感できる相手や仲間と歩んでいきます。

親は、子どもの成長を信じ、遠くからそっと見守っていきましょう。

思春期の子が輝く10のメッセージ

- 1 いつまでも「生まれてきてくれてありがとう」の気持ちを大切にしましよう。
- 2 「あなたは私の生きがい。喜びだよ」と子どもに伝えてあげましよう。
- 3 「がんばれ」より「がんばってるね」と認めてあげましよう。
- 4 反抗も甘え、思う存分させてあげましよう。
- 5 親の希望よりも、子どもが望むことをかなえてあげられる親になりましよう。
- 6 いうことを聞かない子には、「～しなさい」よりも「～してね」とお願いするほうが効果的です。
- 7 子どものために自分のプライドを捨てられる親になりましよう。
- 8 「あなたはあなたのままがいい」これは子どもだけでなく、お父さん、お母さんへのメッセージでもあります。
- 9 子どもは失敗して大きくなるもの。大いに失敗させ、必要なときは親が子どものかわりに謝りましよう。
- 10 子育て以上に価値ある仕事はありません。自分の子育てに自信をもって取り組んでください。



★小学校で力を付けてきた仲間とのかわりを通して★



小学校の授業や行事などで多くの友達と関わり、教え合いや学び合いを通して**勤勉性**を育んできました。中学校でもその経験を生かして、課題に直面した時には自分たちで考えを出し合い解決していきます。その中で、友達の考え方のよさや違いに気づき、互いを認め高め合いながら成長していきます。親はその姿を見守り、時には相談に乗りながら、子ども自身で乗り越えられるように励ましましよう。